

# 第38回「議員と語りかい」報告書

文教厚生常任委員会 (No.1)

開催日	令和4年7月31日(日曜日) 10時00分 ~ 11時30分		
開催場所	霧島市役所 議会棟 第3・4委員会室		
団体名	個人参加	参加 人員	9人 (男7人:女2人)
出席議員	平原 志保、山口 仁美、野村 和人、竹下 智行、久保 史睦、 阿多 己清、前川原 正人		
役割分担	班長(平原 志保) 副班長(山口 仁美) 記録係(山口 仁美)		
テーマ及び具 体的な話題	テーマ「6歳~15歳の子どもがより良く育つ地域環境」 ・6歳~12歳の子どもがより良く育つ地域環境 ・12歳~15歳の子どもがより良く育つ地域環境 ・自由テーマ		

意見 交換 会 の 主 な 話 題 等	<p>【当日の各テーブルでの話題の概要】</p> <p>(現状の学校のあり方に関して)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの不登校・自殺が過去最多を更新している。教育のあり方を時代に合わせていくことができないのか。</li> <li>・子どもにやらせたほうがいいということ(提案)が多く、子どもにとっては負担なので、情報の選択やスクラップ&amp;ビルドをすべきではないか。「やらないことを決める」教育も必要である。また、学校現場への「やらない提案」も必要である。大人でも求められないほどタスクが多い(学校&amp;部活&amp;宿題で夜遅くまで)。心身の健康を考えると、いかなものか。</li> <li>・勉強=仕事ではないはずだが、学校の成績が子どもたちを苦しめている。</li> <li>・議会でも、学童保育、学校の保護者、教員の話聞いてほしい。現場の先生が何に困っているのか、聞いてほしい。学級崩壊の実態を調べてほしい。見に来てほしい。</li> <li>・校則の見直しが必要なのではないか。細かい決まりが多すぎ、子どもたちから考える機会を奪っている。自主性を学ぶ教育を。熊本のように校則を通して、子どもたちに話し合せて考えさせることはできないか。</li> </ul>
---	---

<p>意見交換会での主な話題等</p>	<p>(現状の子どもたちと地域のあり方について)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・孤独な状況にある子どもたちが気になる。子どもたちの居場所や、感性を磨く場が必要ではないか。子どもたちが、友達同士で助け合い、育ち合う場が必要である。公園はもちろん、神社仏閣なども含めた遊び場や居場所。</li><li>・生きづらさを感じる子ども達がいる。弱さを認め合える場、課題を共有できる場が作れないか。不登校などの原因は、子どもたちではなく「社会教育のあり方」にある。</li><li>・市に対するイメージは、14歳ごろの地元のイメージによると思う。それまでに尊い土地と思えるような教育が必要。</li><li>・地域の神社や仏閣を大切に利用してほしい。</li><li>・「身近な公園」で遊べる環境がない場所がある。</li><li>・親子ともに異年齢での体験の共有が必要である。海外など、外に出ることを前提とした地域教育のあり方を考える場もあって良いと思う。ボーイスカウトやキャンプファイヤーなど、自然の中での体験ができる場が必要ではないか。</li></ul> <p>(保護者について)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・コロナで、親同士が集まり、親睦する場が減っている。</li><li>・自分たち世代と先輩世代との繋がりや情報共有がしたい。</li><li>・課題がある子ども達、その親にもフォローが必要なケースがある。家族丸ごと支援していくことができないのか。</li></ul>
---------------------	--